

# 松江市立鹿島歴史民俗資料館だより

No.45

2025年12月発行

## ■ 特別展「島根半島の考古学」はもうすぐ終了します。1月18日まで！

島根半島は、日本海に面し、豊かな環境があり、内側には宍道湖、中海と言った穏やかな水域を持つことから、各時代の様々な暮らしが営まれてきました。島根半島の日本海岸の多くは砂利浜で、船を引きあげる際、抵抗が少なく好都合ですし、玉砂利は航行には船のバラスト（重り）としても利用できたと、今回提起しています。

鹿島町の奥才古墳群には、砂利敷きの棺が数多くあります。なかでも奥才型木棺とよぶ、内法3m以上の箱式木棺で、棺底面に砂利を敷き、棺内を2区画以上に分けるタイプの棺は、島根半島のほか北部九州、但馬、丹後と日本海地域を中心に分布しています。これは、港と港を結ぶネットワークがあり、そこで交易、補給、情報収集を行った人々のシンボルとしてこの木棺葬法が共有されたものと考えられます。この奥才型木棺のプロトタイプが、この古墳群にあることを証明してみようともしてみました。

今回の展示では、島根半島の砂利浜から古代人の日本海を往来した海上交通とともに、この地に根付いた島根半島の文化をご紹介します。



島根半島の古墳から出土した鏡や玉類



出雲型子持壺



奥才古墳群の葬送棺模型

## ■ 新年特別開館のお知らせ

新年も1月1日に特別開館します。この日のみ入館料は無料となります。